



第十六回 酒屋万来文楽

桂川連理柵

帯屋の段 道行隕の桂川

2023年10月22日（日）

令和5年10月22日（日） 15:00開演（14:30受付開始・開場）

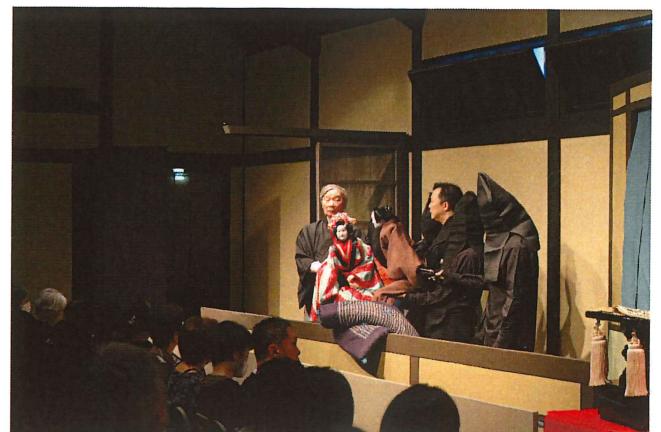
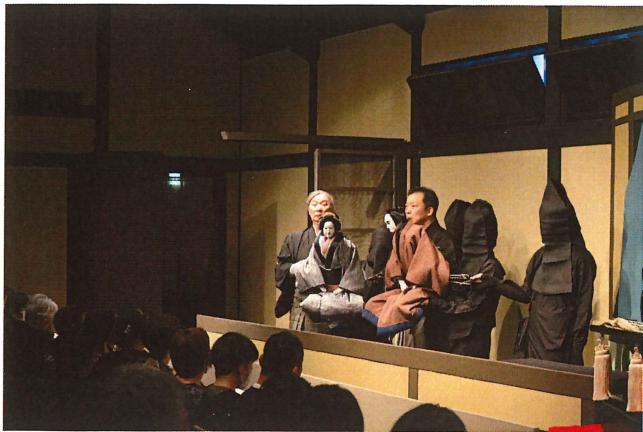
白鷹禄水苑 宮水ホール

西宮は文楽の源流「傀儡師」発祥の地といわれ、文楽と大変縁の深い町です。同時に西宮は全国有数の「酒どころ」でもあります。この「酒」と「文楽」という西宮を語るに欠かせない二つの要素を、造り酒屋において同時にお愉しみいただこうというのが、「酒屋万来文楽」です。第16回目となる今回は、宝暦年間に実際に起こった事件を素材にした「桂川連理柵」から、『帯屋の段』と『道行隕桂川』を取り上げました。

全段の中心となるのが「帯屋の段」で、今回取り上げるその後半部分では、お半との関係を知りつつも堪え、夫婦の愛情を切々と訴える女房お絹の貞節が情趣深く描かれます。続く「道行隕桂川」では、長右衛門がお半を背負って登場する印象的な幕開けから、哀調を帶びた曲節が終盤に向かって華やかさを増して二人を死出の道行きへと誘います。今回はお絹とお半の対照的な二人を、和生師が一人二役で遣うという、他では見られない形での上演となりました。

「道行隕の桂川」は、十四年前、第三回酒屋万来文楽でも取り上げた懐かしい演目で、その時のお半は文雀師匠、長右衛門は和生さんでした。かつて文雀さんが遣われたお半を今回和生さんが遣われることとなりましたが、和生さんがお半を遣われるのは非常に稀のことです。しかも女房お絹との一人二役という前代未聞の演出で、年齢、境遇、性格も大きく異なる二人の女性像を瞬時に遣い分け、表現するという、まさに名人芸を目の当たりにする思いがしました。





第二部「文楽のてほどき」では、和生さんが来場者の質問に答える形で、今と昔の修行方法の違いなどご自身の体験を含めた興味深いお話をうかがいました。今は映像や音声記録に容易に触れる所以で、それを通じて型や振りを覚えることは可能である。ただそれだけでは人形に性根が入らない。実際の舞台で演じることが結局一番の修行になっているとのこと。50年以上この道一筋に歩んでこられた名人による、重みのある言葉でした。

出演者

淨瑠璃 豊竹呂勢太夫

豊竹靖太夫

三味線 鶴澤藤藏

鶴澤清志郎

人形

娘お半・女房お絹

吉田和生（人間国宝）

帯屋長右衛門

吉田玉佳

繁斎

吉田玉翔

吉田玉勢

吉田玉路

吉田和馬

吉田玉延

吉田玉峻

吉田和登